

# 公開実用 昭和 59— 78662

⑬ 日本国特許庁 (JP)

⑭ 実用新案出願公開

⑫ 公開実用新案公報 (U)

昭59—78662

① Int. Cl.<sup>3</sup>  
H 06 K 5/02

識別記号

庁内整理番号  
7216—5F

⑬ 公開 昭和59年(1984)5月28日

審査請求 有

(全 頁)

⑧ 音声信号を音声に変換する携帯用機器を保持  
するためのベルト

東京都新宿区若松町9番20号  
若松マンション301

⑨ 実 願 昭57—173634

⑩ 出 願 人 ロビー・マイケル・ジョセフ

⑪ 出 願 昭57(1982)11月18日

東京都新宿区若松町9番20号  
若松マンション301

⑫ 考 案 者 ロビー・マイケル・ジョセフ

⑬ 代 理 人 弁理士 曾我道照 外1名



明 細 書

1 考案の名称

音声信号を音声に変換する携帯用機器を保持  
するためのベルト

2 実用新案登録請求の範囲

(1) 音声信号を音声に変換する携帯用機器に密  
着してこれをしつかりと保持収容する第1の  
容器であつて、音声再生器リードの引出し用  
開口および電源リードの引込み用開口を有し  
たものと、前記携帯用機器に給電するための  
バッテリーに密着してこれをしつかりと保持収  
容する第2の容器であつて、前記電源リード  
の引出し用開口を有したものと、前記第1お  
よび第2の容器をしつかりと取付けたベルト  
部とを備えたことを特徴とする音声信号を音  
声に変換する携帯用機器を保持するためのベ  
ルト。

(2) 音声信号を音声に変換する前記携帯用機器  
は再生専用のテープレコーダである実用新案  
登録請求の範囲第1項記載の音声信号を音声

( / )

に変換する携帯用機器を保持するためのベルト。  
1  
2

(3) 前記携帯用機器はラジオ付の再生専用テー  
プレコーダである実用新案登録請求の範囲第  
1項記載の音声信号を音声に変換する携帯用  
機器を保持するためのベルト。  
3  
4  
5  
6

(4) 前記携帯用機器はラジオである実用新案登  
録請求の範囲第1項記載の音声信号を音声に  
変換する携帯用機器を保持するためのベルト。  
7  
8  
9

(5) 前記音声再生器はヘッドホンである実用  
新案登録請求の範囲第1項ないし第4項いず  
れか1つに記載の音声信号を音声に変換する  
携帯用機器を保持するためのベルト。  
10  
11  
12  
13

(6) 前記第1の容器、前記第2の容器、および  
前記ベルト部の材質はオックスコルパである  
実用新案登録請求の範囲第1項ないし第3項  
いずれか1つに記載の音声信号を音声に変換  
する携帯用機器を保持するためのベルト。  
14  
15  
16  
17  
18

(7) 前記第1の容器、前記第2の容器、および  
前記ベルト部は革製である実用新案登録請求  
19  
20

の範囲第1項ないし第5項いずれか1つに記載  
の音声信号を音声に変換する携帯用機器を  
保持するためのベルト。

### 3 考案の詳細な説明

この考案は、再生専用の携帯用テープレコー  
ダ等のような音声信号を音声に変換する携帯用  
機器を保持するためのベルトに関するものであ  
る。

最近、若者の間では歩きながら、またはジョ  
ギングやローラースケート、もしくはスキー等  
のスポーツをしながら、再生専用の小形のテー  
プレコーダを携帯して音楽を楽しむということが  
流行している。このような再生専用のテープレ  
コーダとして例えばソニーが販売しているウ  
ォークマンという商標名のものが知られている。  
このような再生専用テープレコーダを実際に携  
帯するためには、肩からかけたり、バンドに金  
具で引っ掛けたり、またはカバンの中に入れて  
持ち歩く等の方法がとられている。


しかしながらこのような携帯方法では、スポ

ーツをしながら再生専用テープレコーダを聞く  
 場合には、スポーツ時にカバンを所持するのは  
 不都合であるし、肩かけ式またはバンドに引つ  
 かける方式では再生専用テープレコーダが揺れ  
 て安定性が悪く、その揺れのためにテープのワ  
 ウが生じたりして音質の極めて悪いものとなる。

この考案は以上のような欠点を克服するため  
 に為されたもので、スポーツ時でも再生専用テ  
 ープレコーダをしつかりと保持して該再生専用  
 テープレコーダの音質が変わらないようにする  
 ことを目的とする。

この目的を実現するためにこの考案によれば、  
 音声信号を音声に変換する携帯用機器に密着し  
 てこれをしつかりと保持収容する第 1 の容器で  
 あつて、音声再生器リードの引出し用開口およ  
 び電源リードの引込み用開口を有したものと、  
 前記携帯用機器に給電するためのバツチリに密  
 着してこれをしつかりと保持収容する第 2 の容  
 器であつて、前記電源リードの引出し用開口を  
 有したものと、前記第 1 および第 2 の容器をし

( 4 )

 1  
つかりと取付けたベルト部とを備えたことを特 1  
徴とする音声信号を音声に変換する携帯用機器 2  
を保持するためのベルトが提供される。 3

4  
以下、図について説明する。第1図はこの考 4  
案の一実施例による再生専用テープレコーダの 5  
保持ベルトを示すもので、ベルト部1は好まし 6  
くは防水効果のあるオックスコルパ（ナイロン 7  
100%）や革のような材質でできている。し 8  
かしながら、ベルト部1の材質はこれに限定さ 9  
れることなくベルトに連するすべての材質が使 10  
用可能である。ベルト部1の両端にはこのベル 11  
ト部を腰にしつかりと着用できるようにマジツ 12  
クテープ（ループエンドフックフアスナ）1a 13  
および1bが装着されている。斜線で示されて 14  
いるマジックテープ1aはフック部であり、2 15  
重斜線で示されたマジックテープ1bはループ 16  
部であるのが望ましい（テープ部分1bは体に 17  
触れる可能性があるため）。 18

19  
ベルト部1の中央付近には再生専用テープレ 19  
コーダのような携帯用機器を収容するための、 20

望ましくはベルト部 / と同じ材質でできた第 / 1  
 の容器 2 がしつかりと取付けられている。第 / 2  
 の容器 2 は携帯用機器をしつかりと保持するこ 3  
 とができるようにそれとびつたりと密着した寸 4  
 法に作られる。また第 / の容器 2 自体の蓋がマ 5  
 ジックテープ 2 a および 2 b でしつかりと閉め 6  
 られる。これによりベルト部 / が腰にしつかり 7  
 と保持されることと相俟つて、容器 2 の内部に 8  
 収容された携帯用機器はガタツクことはない。 9  
 第 / の容器 2 にはさらに、ヘッドホンやイヤホ 10  
 ン等の音声再生器を携帯用機器に接続するため 11  
 の音声再生器リード引出し用開口 2 c と電源を 12  
 接続するための電源リード引込み用開口 2 d と 13  
 が開けられている。 14

ベルト部 / の中央付近にはまた、携帯用機器 15  
 への電源供給を行うバッテリーを収容するための、 16  
 望ましくはベルト部 / と同じ材質でできた第 2 17  
 の容器 3 がしつかりと取付けられている。第 2 18  
 の容器 3 はバッテリーをしつかりと保持すること 19  
 ができるようにそれとびつたりと密着した寸法 20

に作られる。また第 2 の容器 3 自体の蓋がマジ  
ックテープ 3 a および 3 b でしつかりと閉めら  
れる。これによりベルト部 1 が腰にしつかりと  
保持されることと相俟つて容器 3 の内部に収容  
されたバッテリーがガタツクことはない。第 2 の  
容器 3 にはさらに、電源リード引出し用開口  
3 c が開けられており、この開口 3 c と第 1 の  
容器 2 の電源リード引込み用開口 2 d を通して  
バッテリーから携帯用機器に電源供給される。な  
お、開口 2 c, 2 d および 3 c にはハトメ等を打  
込むことにより、開口から材質がほころばない  
ようにすることが望ましい。

ベルト部 1 の中央付近にはさらに第 3 の容器  
4 が取付けられて示されており、この容器 4 は  
例えばカセットテープを収容するのに都合が良  
い。第 3 の容器 4 の上に重ねて第 4 の容器 5 が  
取付けられており、この容器 5 には小銭を入れ  
るのが都合が良い。第 3 の容器 4 および第 4 の  
容器 5 は単に付属品として示されているもので、  
この考案を達成するための必須の構成要件では



ない。

以上、第 1 図で説明した構成において、まず  
携帯用機器を第 1 の容器 2 に、バッテリーを第 2  
の容器 3 にそれぞれ収容して蓋を閉める。次に  
第 2 の容器 3 の開口 3 a から引出された電源リ  
ードを開口 2 d を通して携帯用機器に接続し、  
また開口 2 c を通してヘッドホンを接続する。  
次にマジックテープ 1 e および 1 b によつてベ  
ルト部 1 を腰にしつかりと着用する。その後第  
1 の容器 2 の材質の上からボリューム等のツマ  
ミ類は容易に操作し得る。これにより例えばジ  
ョギング等のスポーツ時にヘッドホンを通して  
音楽を楽しむ場合にも携帯用機器は腰に安定に  
保持されるので音質が悪くなることはない。

なお、以上の実施例では第 1 の容器 2 は長さ  
方向を縦方向にしてベルトに取付けたものを示  
したが、第 2 図に示すように長さ方向を横方向  
にしてベルトに取付けるようにしても良い。こ  
のような取付けによれば横方向の取付け長さが  
長くなる代りに、ベルト幅をわずかに縮少でき、

また第 1 図では蓋に設けられていた開口 20 が  
容器 2 の側面に設けられることとなるので、雨  
等の防水の面では有利であると考えられる。ま  
た、第 1 図および第 2 図では第 1 の容器 2 が図  
面の左側、第 2 の容器 3 が図面の右側に取付け  
られて示されているが、携帯用機器の種類に応  
じて（すなわち開口 20, 21 および 30 を設け  
なければならない位置に応じて）、これら容器  
2 および 3 の取付位置および取付方向は種々に  
変更し得る。

また上記実施例ではベルト部 1 はマジックテ  
ープ 1a および 1b で着用し得るようにしたもの  
を示したが、普通のベルト締め具であつても  
良い。

さらに上記実施例では第 1 の容器 2 に収容す  
る機器を再生専用の携帯用テープレコーダとし  
て説明したが、ラジオ付の再生専用テープレコ  
ーダや小型ラジオもしくは普通のテープレコー  
ダ等、音声信号を音声に変換する携帯用機器一  
般に適用し得る。

また、第3図に示すようにベルト部1の内側  
と外側にそれぞれマジックテープのループ部  
6bおよび6cを取付け、そしてマジックテー  
プのフック部6aを取付けたカバー6をループ  
部6bおよび6cによつてベルト部1に着脱自  
在にするようにしても良い。このカバー6を使  
用すると容器2,3および4を囲むことになり、  
雨等に対して防水上効果的である。

最後に、上記実施例では携帯用機器とバッテ  
リとが別々の容器に収容されるものを示したが、  
バッテリー組込式の携帯用機器の場合は第2の容  
器3は不要で第1の容器2だけを設ければ良い  
のはもちろんである。

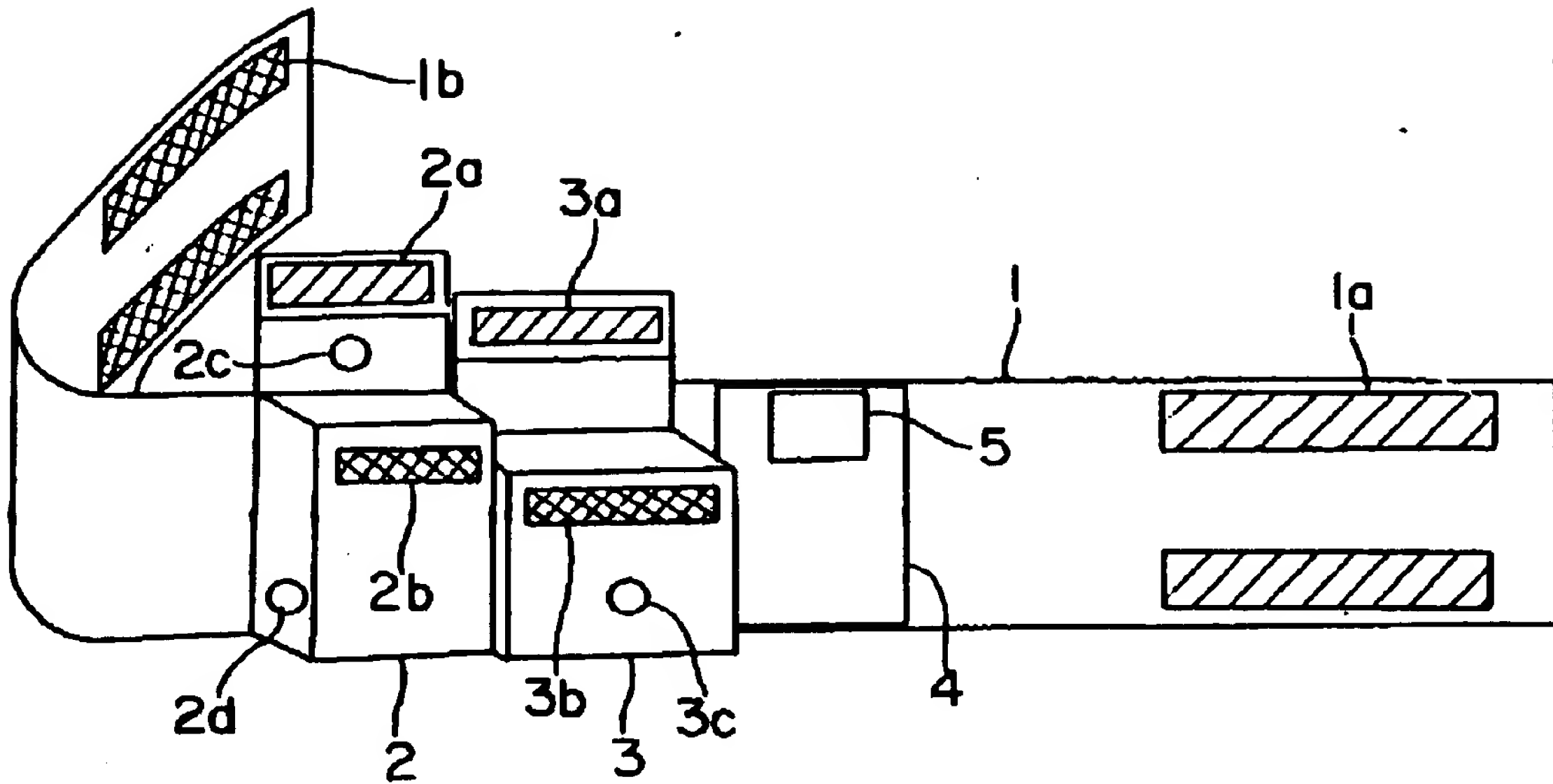
いずれにしても第1（および第2）の容器は、  
音声信号を音声に変換する携帯用機器の製品の  
種類に応じて種々の大きさおよび形状が特定さ  
れてベルト部1にしつかりと取付けられること  
により、スポーツ等をしながらの携帯時に前記  
携帯用機器の音質が悪くなることはないという  
この考案の効果を最大限に発揮し得る。

7  
以上のようにこの考案によれば携帯用機器を、  
ベルトに取付けられた容器内に安定に保持する  
ようにしたので携帯用機器がカタツクことはな  
く、従つてスポーツ時でも音質が悪くなること  
はない。またベルト部 / の長さを加減すること  
により誰でも簡単に着用でき、さらにゆるんだ  
り落ちたりすることがないので非常に信頼性の  
高いものを提供している。

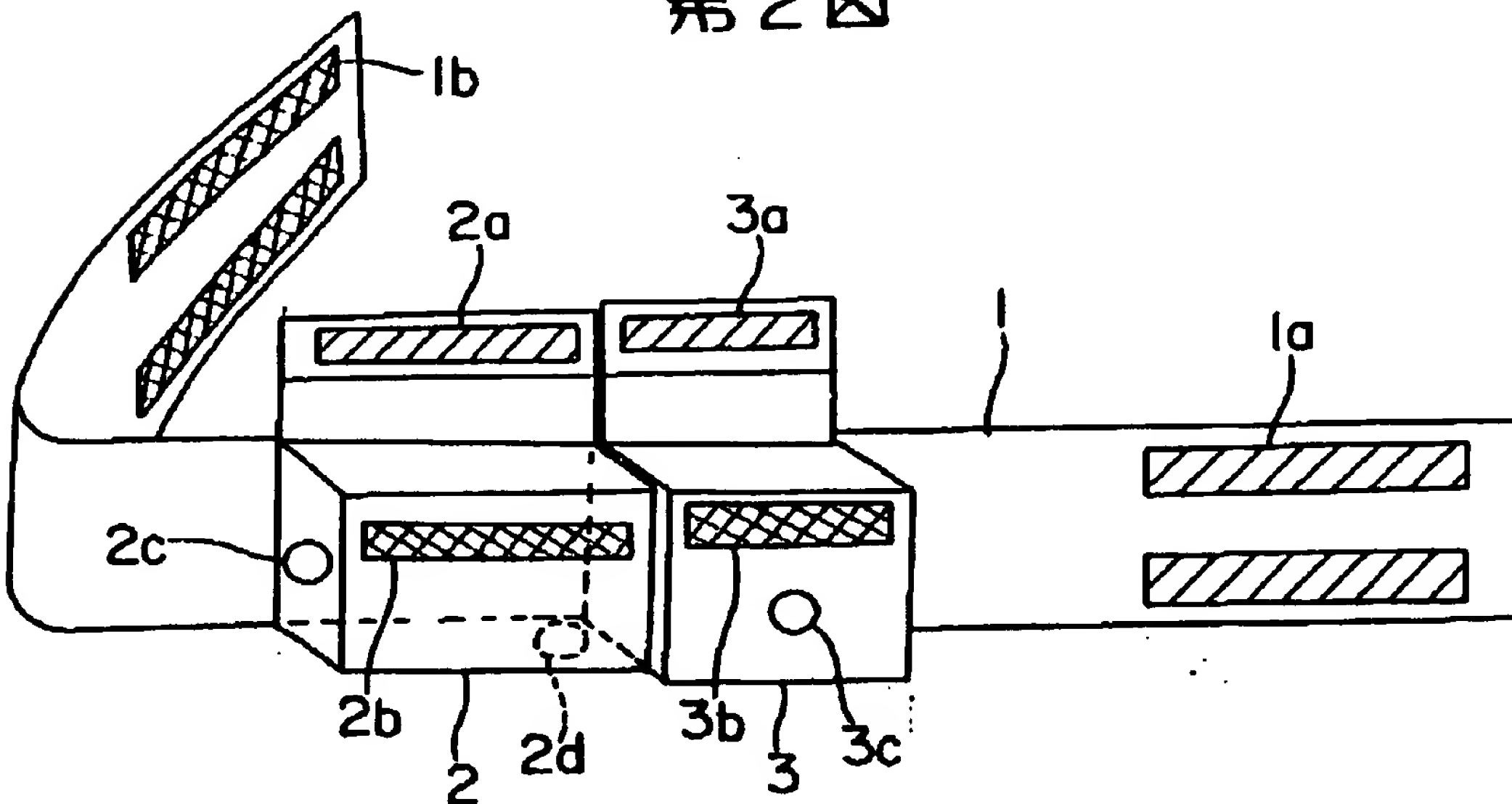
#### 4 図面の簡単な説明

第 1 図はこの考案の一実施例による保持ベル  
トを概略的に示す斜視図、第 2 図および第 3 図  
はこの考案の別の実施例による保持ベルトを示  
す斜視図である。図において、/ はベルト部、  
/ a および / b はマジックテープ、2 は第 1 の  
容器、2 a および 2 b はマジックテープ、2 c  
は音声再生器（ヘッドホン等）のリード引出し  
用開口、2 d は電源リード引込み用開口、3 は  
第 2 の容器、3 a および 3 b はマジックテープ、  
3 c は電源リード引出し用開口である。

第 1 図



第 2 図

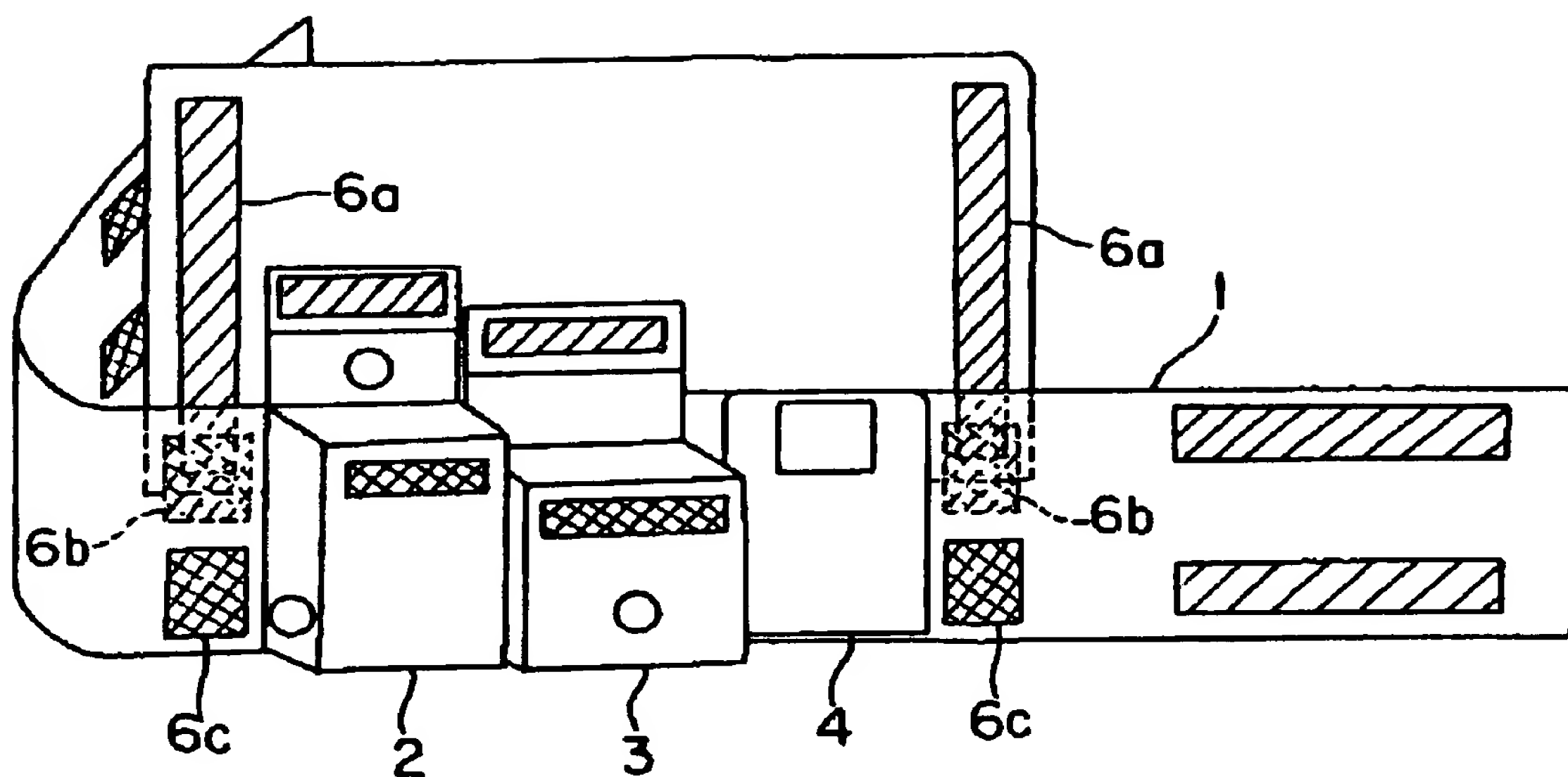


589

實用新案登録出願人代理人 曾我道照

実開59-78662

第3図



540

實用新案登録出願人代理人 曾我道照

実開59-78662